



大安寺護寺会だより

平成二十六年一月六日発行第十一号
発行責任者

大安寺護寺会理事長

北村 耕一

ホームページ <http://www.dai-an-ji.net>

のみいれしき
天瑞山 大安寺 新御本尊 鑿入式

えば りんこう 大仏師 江場 琳覺氏、
えば りんかん 仏師 江場 琳觀氏

新春のご挨拶



大安寺護寺会 会長
大安寺住職 押見 俊哉

西暦二〇一四年（邦暦平成二六年甲午・仏紀二五八〇年）を迎え、謹んで大安寺檀信徒の皆様のご清福と万福多幸をご祈念申し上げます。

檀信徒の皆様には、日ごろより大安寺の護寺の為に、ご理解とご協力を頂いておりますことに、改めて御礼を申し上げます。

元旦を迎えて歳が改まると同時に、私たちの心も改まるべき時でもあります。

私たち日本人は、老いも若きも正月の行事として、寺社への初詣の伝統を受け継いでいます。報道される数から見れば、むしろ先達以上に実践していることになりました。

私たちは暦の改まりを機に心も改まりたいと願い、それを神仏の前でそれを誓うのです。

そこで大切なことは初詣に込める思いです。家内安全

・無病息災・学業成就等々あるでしょうが、改歳に最もふさわしい思いは、過ぎ去った一年やこれまでの人生に残る自分の足跡を仏の教えに照らして振り返り、より良い生き方を実践しようと誓うことです。

大安寺では元朝に『大般若祈禱会』の法要が毎年午前零時より修行されます。また、この法要を『修正会』とも言います。「修正」とは「正月修法」の略ですが、改歳にあたり仏の智慧（般若）をいただき、心安らかに生きることを願う法要です。

では、仏の智慧に照らされて心安らかに生きることを願うとは、どのようなことを指すのでしょうか？それは、尊い生き方をするということです。

人間が一般の動物とは異なることは生きることについて、善悪・使命・無常の認識ができるということです。ですから、尊く暮らすとは、悪をなさず善をなし、世の中における自分の使命を自覚し、世の無常の理を肝に銘じてその時を精一杯に生きることです。

幸いにして仏さまの教えに出会えた私たちです。心に刻んだ元旦を迎えての誓いを忘れることなく、今年も一年をスタートさせていきたいものです。



合掌

仏具について 前机と経机



大安寺 僧侶

押見 清純

今回は机のお話です。本堂で使われる机は、彫刻が施されていたり、きれいな色が塗られていたり、さまざまな飾りが付いています。

まず、前机ですが、須弥壇しゅみだんの前に置かれているので、前机と呼ばれます。

お寺の前机の色は、黒・赤・紫、そして無垢むくといって色を付けずに、木の肌の色のままのものもあります。

前机の正面には、竜や鳳凰ほうおう、また、縦の筋が刻まれただけのものもあります。

上の板の左右には、筆返しと呼ばれる反り返りが付いています。これは文字通り、上にのせた筆が

転がり落ちないように付けたものと言われています。

足は一般には、弓のように外側に曲がっています。そして、一番下の部分が外側に巻き上がっています。これは猫足と呼ばれる形です。

大きさは、本堂や須弥壇の大きさに合わせますので違いがありますが、幅はおよそ一メートル五〇センチ位から、大きなものは三メートル位のものもあります。

次に経机ですがこれは、前机に比べると小さく、幅五〇センチ位から一メートル程が一般的です。

この机は、「経」という字が使われているように、お経の本をのせる机です。また鐘（リン）や香炉、数珠などをのせる場合もあります。必要な仏具をのせておく机なのです。

お寺には、色々な大きさの前机、経机があると思います。どんなものがあるか見て下さい。

御節供料理

節句と日本の歴の一つであり、季節の節目となる日として古来より行事が行われてきました。

江戸時代の幕府が公的な祝日として定められました。それが、人日（じんじつ・一月七日）、上巳（じょうし・三月三日）、端午（たんご・五月五日）、七夕（しちせき・七月七日）、重陽（ちようよう・九月九日）の五節句です。

節句の時に食べられる祝い料理、人日（七草粥）上巳（菱餅・白酒）端午（菖蒲酒・関西ではちまき・関東では柏餅）七夕（素麺）重陽（菊酒）それら全てを称して『御節供料理』と言います。

今日では、人日の七草粥を含め、正月に頂く御重料を『御節供料理』と称する様になりました。

新ご本尊「鑿入れ式」

のみい

七月十日（水）午前十時より地藏供養法要と、引き続き平成二八年に奉納される新ご本尊『釈迦三尊像』の「鑿入れ式」をおこないました。

新ご本尊を平成二八年にお迎えすると共にご賛同を頂き、この日までに奉賛金を納めて頂いた方のご臨席のもと、厳粛裡に修行されました。

この式は、奉賛者により仏像に鑿を入れて頂くことにより、仏さまと奉賛者が仏縁を結んで頂くという、とても有難い儀式です。

新ご本尊さまの制作を依頼している江



場琳覺・琳觀の両仏師には、前日から愛知県よりお越し頂き、仏さまの輪郭を描いた木曾檜材を本堂の正面に安置して、般若心経の読経のなかで、参加者全員に鑿を入れて頂きました。

式の終了後には江場琳覺大仏師の仏像彫刻についてのお話を伺い、鑿入れによって出た木片は、「御分身御守」の中に参加者自身によって中に詰めて、各自お持ち頂きました。

二年後に行われる開眼法要が今から待ち望まれます。

万灯供養

毎年九月となると、大安寺では二日間に渡り、両祖報恩会が行なわれます。

お逮夜に行われる万灯供養は、大安寺だから行なわれるのです。

本堂が暗くなり、多くのローソクの灯りが本堂を明るくし、御先祖を供養するのです。

今は亡き父の顔を思い出してローソクに灯りをつける、亡き母親にあんたもローソクに灯りをつけるようになったかい、と声をかけられている様でした。

「万灯供養」の灯りは今は亡き父・母を偲ぶものでした。

多くの檀信徒の皆様方に万灯供養の灯りを感じてもらいたいものです。

地蔵供養祭

七月十日（水）午前十一時より大安寺において、地蔵供養祭が行われました。

また、大安寺境内に設置されている皇軍戦没者招魂碑への供養も行い、本堂では観音様への御参りも行いました。



盂蘭盆会

八月十六日（金）午後一時から大安寺本堂において、御先祖や亡き人の御霊を迎え、施食会という供養にて、有縁無縁の精霊に供養いたしました。



秋季彼岸会 水子供養

九月秋分の日を中心に一週間を秋彼岸として、先祖の供養を行う大切な仏教行事です。

九月二十三日（月）午後一時から大安寺本堂において、秋季彼岸会・水子供養が行われました。



釈尊成道会

王子は、靈樹といわれる菩提樹の大木の下で、坐禅を組み瞑想に入り、坐禅を始めて八日目、十二月八日の朝、あけの明星が王子に一節の光を投げかけた、その一瞬だったと伝えられています。王子は真理に目覚め、仏陀となりました。

お釈迦様が御仏とられたこの日こそ、仏教の起源と言えます。



両祖報恩会

両祖報恩会お逮夜 万灯供養

九月四日（水）午後六時より大安寺本堂において、両祖報恩会お逮夜の行事が行われました。

天瑞山・大安寺の宗旨である曹洞宗を築かれた道元禅師様・曹洞宗発展の礎を築かれた瑩山禅師様・両祖の偉大な恩徳を讃え感謝をする法会。御先祖を供養する「万灯供養」、多くの蠟燭の灯りが本堂を明るくする様な大安寺ならではの御先祖供養でした。



両祖報恩会ご正當

九月五日（木）午前十時から前日に引き続き本堂において、両祖報恩会正當の行事が行われました。

両祖報恩会は、非常に厳粛な有り難い法要です。

大安寺歴代住職の報恩供養と「特別大施食会」でご先祖供養をいたしました。

恵庭幼稚園の年長組の園児九十名が大安寺本堂で両祖様のお歌を歌いました。

説教

両祖報恩会の二日間、大本山布教老師の説教がありました。

大本山布教師は、

富山県高岡市 林洞

寺住職 倉田豊彰老師

でした。

老師は、参詣者に資料を配布し、道元禅師様の教え・お釈迦様の教え・道元さまのことば等について、お話をしてくださいました。



大安寺婦人会の活動

禅を聞く会

大安寺婦人会会長

芦野 瑞江

十一月二十三日(土)

「禅を聞く会」「自己をみつめる」～人間とは」
夕張市 錦楓寺副住職 磯西 道由宗師さまの講話がありました。

資料の中に不思議な絵がある。

黒いところを見れば、杯のように見える。
その余白を見れば、女の人の顔にも見える。
男の人に顔がだんだん少しずつ変化して思いもよらない裸婦になっている。
もの見方でこんなに違って見えるのはこわいくらいだ。
もの見方はかりでなく、



考え方にも言えることである。

人それぞれの考え方も、ものの見方も違い、これが人間関係に影響し、良くも悪くもする。

決め付けた考えをしないようにし、柔軟に考えるようにしたいもの。

他に考え方はないか？など、よく反省しなければならぬことだと思ふ。

人の好き嫌いもなぜかと考える。なぜ自分はこの思

うのか、反省しなければならぬことがたくさんある。

自分をみつめること、お仏壇に、お寺にお参りすることなどが、自分を向上させるというか、しなやかな心使いを養えるかなと思

う。

たくさん資料を頂いたのに、まだ私のなかでは消化しきれないような気がする。

これは申し訳ないことであり、もっと読み込まなければならぬと反省している。

禅とは奥深いものと改めて思った時間でした。貴重なお時間をありがとうございました。

梅花講の活動

護寺会だより十号で、梅花流詠賛歌の教え、歴史的な事などをお知らせしました。

梅花講の皆さんは、大安寺の行事に参加し又研修会に参加する等幅広い活動をしています。



禅を聞く会

十一月六日(水)午後六時から札幌市中央区の札幌パークホテルで「禅を聞く会」が開かれました。

講師は、

松前町法幢寺住職

木村清韶老師

小説家・妖怪研究家

京極夏彦氏



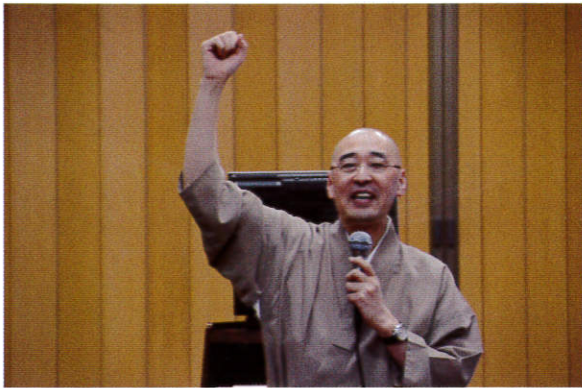
大安寺から護寺会理事・婦人会・梅花講等の多くの方が参加いたしました。

大安寺カラオケの集い

十二月八日(日) 釈尊成道会のおつとめの後、ご住職の発案により、参詣された方々とカラオケの集いを大広間で行いました。

カラオケ大好き、のど自慢が多く、なごやかな一時を過ごしました。

司会は佐藤洋子氏(日本レクリエーション協会指導員)に務めて頂きました。



施設管理部

大安寺境内の排水改善について

大雨のため境内の雨水の排水が良くないことから、雨水の排水のための工事を行いました。



奉賛金のお願

大安寺新ご本尊「釈迦三尊像」の奉賛金をお願い致しております。御協力の程、宜しくお願い申し上げます。

平成二十六年年度年回表

一周忌	平成二十五年
三回忌	平成二十四年
七回忌	平成二十年
十三回忌	平成十四年
十七回忌	平成十年
二十三回忌	平成四年
二十七回忌	昭和六十三年
三十三回忌	昭和五十七年
三十七回忌	昭和五十三年
五十回忌	昭和四十年
百回忌	大正四年

曹洞宗 大本山永平寺 御直末

天瑞山 大安寺

〒061-1424

北海道恵庭市大町四丁目二番二十五号

電話番号 011-3134-1093

FAX番号 011-3133-1805

大安寺ホームページ <http://daijinet>

永代供養専門サイト <http://daijinet.net>